



ホームページ



やまなかしょうじ

近江日野商人ふるさと館「旧山中正吉邸」

西大路1264番地 ☎ 0748-52-0008



今回は、令和7年10月に開館10周年を迎えた、近江日野商人ふるさと館「旧山中正吉邸」を紹介いたします。

日野商人の歴史を 今に伝える場所

江戸時代から全国で活躍した日野商人を代表する一人である山中正吉家の本宅を活用し、日野の歴史や文化を「知って・体験して・発信する」場所として、平成27年10月1日に開館しました。

日野商人は、江戸時代から日本各地で商いを広げており、山中正吉家は、今の静岡県富士宮市を中心に醸造業を営んでいました。

ここでは、江戸から昭和までを生きた、リアルな日野商人の暮らしを体感することができます。

受け継がれる邸宅

この邸宅は、日野商人の本宅として価値が高く評価され、平成27年に町の有形文化財に指定されています。

はじめりは、幕末の万延元年（1860年）、初代・正吉が仁正寺藩から土地を拝領したことでした。邸宅が現在の姿になったのは昭和中ごろです。

主屋は農家住宅にならった質実なつくりで、台所土間にある黒タイル貼りのくど（かまど）が特徴的です。一方、お客さまを迎える数寄屋風書院造りの新座敷は、洋間やシャワー付き浴室が備えられており、「日野商人Ⅱ始末（俵約）」というイメージをくつがえす豊かさや先進性を随所に感じることができます。



味わって知る、日野の歴史

館内では、「日野の伝統料理を継承する会」の皆さんによる、予約制の食体験レストランもお楽しみいただけます。日野祭のごちそう「鯛そうめん」など、昔ながらの伝統料理を、本格的な日本庭園を望む座敷で味わうことができます。

なお、日野ひなまつり紀行の期間中（3月8日まで）は、限定メニューのみのご提供となります。

10周年を迎えた今、改めて日野商人の魅力に触れてみませんか。



ひなまつり御膳

令和7年度

滋賀県統計功績者 表彰式が

開催されました

開催されました

各庁が実施する統計調査で、長年、調査員として従事され、調査に大きく貢献された2名の方が、2月3日（火）に開催されました滋賀県統計功績者表彰式にて表彰されました。

今後の一層のご活躍を期待しております。

農林業センサス功績者農林水産大臣表彰

中井 良久さん
(必佐)



統計事務功績者滋賀県知事表彰

井上 順子さん
(東桜会)



◆問い合わせ先
企画振興課

企画人権担当

☎ 0748-52-6552



町ホームページ内でも町的话题を紹介していますのでぜひご覧ください。

レシピも配布されました



12月上旬に、町内の学校給食で提供されている日野菜を使った10品のメニューが紹介され、来場者が「一番食べてみたい」「おいしそう」と感じたメニューに投票しました。その結果、1位に「日野菜漬けコロッケ」、2位に「日野菜チャーハン」が選ばれ、給食メニューを再現した日野菜漬けコロッケ2種類と日野菜チャーハンの試食が行われました。

試食した方には「おいしい」と好評で、今回選ばれたメニューが、今後の新たな定番として親しまれていくことが期待されます。

日野町の伝統野菜「日野菜」
みんなで選ぶ！
未来の定番メニュー



町ホームページ
「子育てサロンへ行こう」

子育てサロンにもぜひお気軽に遊びに来て下さいね♪



日野町では、各地区の公民館を会場に「子育てサロン」を開催しています。サロンスタッフは子育て中のお母さんたちで、地域の皆さんと一緒に子育てを応援しながら、楽しい催しを企画されています。お住まいの地区に関わらず、町内どのサロンにも参加できます。

いちご劇場の
わくわくショー

1月6日(火)、町内の未就園児親子を対象とした子育てサロンの合同イベントとして、「いちご劇場」さんによるわくわくショーが西大路公民館で開催され、22組の親子が参加しました。

当日は、不思議なパネルシアターやカラフルなバルーン、ワクワクするマジックなどが披露され、会場は笑顔と歓声に包まれ、子どもたちは保護者と一緒に楽しいひとときを過ごしました。

日野町人権学習講座

1月19日(月)、わたむきホール虹で、令和7年度日野町人権学習講座(多文化共生講演会)を開催しました。本講座では、甲賀市市民活動推進課多文化共生推進室係長で、NPO多文化共生マネージャー全国協議会理事の上原(うえはら)さん(うへはら)を講師に迎え、「共に生き・共に守る 外国人住民と築く地域防災」をテーマにご講演いただきました。

参加者からは、日野町に多くの外国人が暮らしている現状に驚きつつ、文化や言葉の違いを越えた相互理解の大切さを実感したという声が多く寄せられました。特に「やさしい日本語」やあいさつといった小さな交流が信頼関係づくりの第一歩になるとの気づきが共有され、防災分野では外国人防災リーダーや通訳、ピクトグラムの重要性への理解が深まりました。行政とともに、地域や企業、一人ひとりが主体的に関わり、「助けられる人」から「助ける人」へと共に支え合う多文化共生の必要性が改めて認識されました。

共に支え合う地域づくりを目指して

